

平成 30 年度第 1 回地殻活動研究委員会活動記録

日 時：平成 30 年 9 月 5 日(水)～6 日(木)

場 所：瑞浪地科学研究館 1F セミナールーム

出席者：石井 紘、板場智史、大塚成昭、加納靖之、笠原 稔、川崎一朗、木股文昭、  
國友孝洋、佐々木嘉三、佐野 修、鈴木貞臣、田阪茂樹、田部井隆雄、  
津村建四朗、古本宗充、松浦律子、三浦 哲、向井厚志、村上 亮、山川 稔、  
山中佳子、吉岡祥一（22 名）

オブザーバー：青木治三、金沢敏彦、関根正夫、寺川寿子（4 名）

事務局：浅井康広、田中俊行、村上 理（3 名）

議 事：9 月 5 日（水）13:30～17:30

・研究活動の紹介(1)

青木治三	南海トラフプレート境界の断層運動について
吉岡委員	関東下における海洋プレートの温度・脱水分布と 微小地震の発生の関連性について
寺川寿子	間隙流体圧をパラメータとした絶対応力場のモデル化と推定
津村委員	極微小地震データを含む全国地震活動図について
國友孝洋	超磁歪震源による瑞浪層群内の地下構造変化のモニタリング
石井 紘	応力計・歪計に関するいろいろな考察
佐野 修	応力計記録とスケンプトン定数について
笠原 稔	石井式歪計・応力計で記録される地震動と地震規模の関係 (2) 陶史の森・日吉・正馬様・深地層研縦孔内(応力)観測点の結果
板場委員	静的歪変化を用いた地震規模即時推定
向井委員	2018 年大阪府北部の地震および西日本豪雨に伴う 六甲高雄観測室における地殻変動について

議 事（続き）9 月 6 日（木）9:30～12:00

・研究活動の紹介(2)

三浦委員	霧島山高千穂河原における重力連続観測
村上委員	雌阿寒岳北東で発生した 2016-2018 膨張エピソード
山中委員	御嶽山山頂に設置した多点観測試験データを用いた山頂付近の地震活動
松浦委員	任意地点の地表震度の新しい予測式について
川崎一朗	富山新港の 1 秒サンプリング潮位記録と短周期先行津波
加納委員	歴史地震における地下水異常の分析
田阪茂樹	割石温泉における湯量観測

・討論

各委員の研究報告の後、研究成果に対する質疑応答を行った。